

● シリーズ ● わがまちの文化財へ25

県指定重要文化財 絹本着色弘法大師画像

昭和28年6月23日指定

今高野山龍華寺御影堂の本尊で、いす式の座の上に正座した弘法大師が描かれています。紀州高野山や善通寺に所蔵の大師像とともに三大師像ともいわれているもので、秘仏とされています。

この大師像には「またたき大師」の異名があります。これは、表装を替えるために預けた表具師のもとで、他の寺院から預けられたそっくりの大師像と見分けがつかなくなった際、画像の大師がまたたきをして住職や総代たちに知らせたという説話に由来するものです。お大師さんと呼ばれ親しまれる弘法大師への畏敬の念が表れた話でもあります。

大師像は鎌倉時代初期（13世紀前半）の作品と考えられています。



※例年、4月20日に御開帳され、拝観することができます。ただし、天候不良等により中止となる場合もあります。

● シリーズ ● わがまちの文化財へ26

県指定天然記念物 津田明神の備北層群と粗面岩

平成10年9月21日指定

世羅町上津田、下津田周辺からは、十種類以上の化石が採掘されています。

これらの化石から、世羅台地の一部は、新生代新第三紀新中世中期（今から千六百万年前頃）には、遠浅の海であったことがわかります。また、大型有孔虫オパキュリナの化石や大型のカキの化石が見つかっているため、世羅台地が今のような地形になる以前は、一時温暖気候で、干潟のような場所であったことが推測されます。

特に津田明神山（標高五九三m）からは中生代の流紋岩と新生代の備北層群・粗面岩・玄武岩といった、火山活動・沈降・隆起などの現象などがよく読み取れ、また、粗面岩は県内で初めて発見された岩石ということもあり、その露頭が県の天然記念物に指定されています。



貝の化石（巻貝の仲間）



化石の出る地層（備北層群）と粗面岩・玄武岩の三層が見られる露頭